



国の借金、令和5年12月末時点で約1286兆円と過去最高に(財務省)

財務省が公表しました、令和5年12月末時点での国債や借入金などを合計した「国の借金」は、同年9月末から10兆8404億円増えて過去最高の1286兆4520億円となりました。令和6年度の税込総額は約69兆円と7年連続で過去最高を更新する見通しですが、高齢化による社会保障費の膨張に加え、物価高対応、持続的で構造的な賃上げ実現などの財政支出があるため、新規国債発行で歳入不足を賄う予定で、国の借金は膨張が止まりません。

令和5年12月末の国の借金の区分では、国債が同年9月末に比べ、約14.8兆円増の約1146.1兆円で全体の約89%を占め、うち普通国債(建設国債、赤字国債等)は約1043.8兆円と過去最大だった昨年9月末から約16.4兆円増えました。その内訳は、長期国債(10年以上)が昨年9月末から約8.7兆円増の約802.4兆円、中期国債(2年から5年)が約1.1兆円増の約192.9兆円、短期国債(1年以下)も約6.5兆円増の約48.5兆円とすべて増加しました。

この「国の借金」約1286兆円は、令和6年度一般会計予算案の歳出総額112兆5717億円の約11.4倍、同年度税込見込み額69兆6080億円の約18.5倍にあたり、年収500万円の社員が9250万円の借金を抱えている勘定です。また、日本の今年1月1日時点での推計人口1億2409万人(総務省統計局の概算値)で割った国民1人当たりの借金は、令和5年9月末時点で同様の計算方法で算出した約1026万円から、約1037万円に増加します。

わが国の公債残高(普通国債残高)も、年々増加の一途を辿っていますが、令和5年12月末実績の公債残高約1043.8兆円が、令和5年度末(令和6年度当初予算ベース)では約1075.7兆円が見込まれています。これは令和6年度予算の税込見込み額約69.6兆円の約15.5年分に相当し、国民1人当たりになると約867万円にのぼり、将来世代に大きな負担を残します。ちなみに、国及び地方の長期債務残高は令和5年度末(令和6年度当初予算ベース)で約1285兆円に膨らむ見込みです。

*詳細はこちらからご確認いただけます。

「国債及び借入金並びに政府保証債務現在高(令和5年12月末現在)(財務省)令和6年2月9日」

<https://www.mof.go.jp/jgbs/reference/gbb/202312.html>

